

## 2010年度 障害児（者）教育研究委員会 総括

### I 活動内容・テーマ

「障害児（者）をめぐる差別や偏見をなくすための課題を研究する」

「特別支援学校と各高等学校との交流のあり方について研究する」

### II 活動計画

第1回 5月28日

「各校における取り組み」報告、県立盲学校学校紹介 VTR 視聴、高取国際高校より車椅子生徒についての報告、年間計画の検討（橿原市中央公民館）

第2回 6月25日 「京都府立八幡支援学校に学ぶ」

第3回 9月18日 「高取国際高校の取り組みに学ぶ」

第4回 10月22日 「盲学校・ろう学校に学ぶ」

第5回 11月26日 「大淀養護学校に学ぶ（大淀養護学校一日授業参加）」

第6回 1月14日 「研修及び今年度のまとめと課題」（天理教校学園高校）

### III 今年度のまとめと課題

- ・特別支援校と高等学校との交流の大切さと困難さを痛感しました。
- ・この委員会に入り、普通科高校では体験できない学校などに訪問させていただき、自分の実となりました。今後も継続して訪問できれば良いと思います。
- ・八幡支援学校は、交流を大切にしている、これから求められる形の学校で充実した施設等、勉強になりました。「社会に出てから自立できるように」という高取国際高校で出された意見等にも、ハッと気付かされた感を抱きました。
- ・本年は回数も多く、感動の多い取り組みであったと思います。京都八幡支援学校、高取国際高校、盲学校、ろう学校、大淀養護学校で多くのことを学ばせていただきました。この感動を生徒や、周りの先生方に伝えていきたいと思っています。ありがとうございました。
- ・普通校で障害のある生徒を受け入れるためには、私達がやはりかかわりを学ぶ必要があります。毎年ですが、本当に勉強させていただきました。
- ・交流及び共同学習の在り方について、私自身も経験が浅いため多くの例を見たわけではないのですが、高等学校の生徒と特別支援学校の生徒が同じ活動をとって、同じ経験や同じ感動を分け合ってお互いを認め合うという活動が増えつつあるのではないかと感じています。一方的に見学する、発信するだけでなく（もちろん、作品交流などお互いの「こんなこともできてすごい」と認め合うような交流も大切だと思います）直接やりとりする中でお互いを認め合い、自分自身が社会の一員であることに気付くきっかけになり、「人権」について考える学習を進めていきたいと私自身は考えています。
- ・2校で交流体験をして共通してわかったことは参加した生徒の思いこみを知る結果となっていた。交流参加するまでの思いは、養護学校の生徒の考え方（希望）や活動が、自分たちと変わらないことを知っていく。2日目以降に、両校（養護学校と高校）で互いに相手にどのようにすれば楽しめるかを計画すると良い。このテーマを継続し、交流の内容を深めていくと良い。
- ・来年度も、特別支援学校の現状を知り、普通校との交流のありかたを研究していければと思います。